



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年04月25日 第1066号「週刊五十嵐レポート」

## それでは、吉野家の常務と同じ

4月20日付日経新聞、朝日新聞で「吉野家、常務を解任」という記事。当該常務はマーケティング分野で幅広く活躍しており、前職生活用品大手P&Gでは「敏腕マーケター」として知られていた。スポーツジム「ライザップ」と組んだ「ライザップ牛サラダ」や、つまみと酒を楽しむ「吉呑み」など手がけた。

4月16日早稲田大学にて「デジタル時代のマーケティング総合講座」の講師をされ、その際の発言の一部がネットに公開され、不適切発言として広まった。「田舎から出てきた右も左も分からない若い女の子を無垢、生娘なうちに牛井中毒にする(生娘をシャブ漬け)」。

ただ、ネットやメディアの怖いところは全体を表した中での一部ではなく、そこだけ一部を取り出してしまうので大きな誤解が生まれる可能性は高い。それを差し引いても、この表現は好ましくない。

「リスペクト」。意味は、尊敬すること。敬意を表すこと。価値を認めて心服すること。「認める」。意味は、よく気をつけて見る。目にとめる。見て、あるものの存在に気づく。見て判断する。

当該常務は、「認める」力は優れていた。しかし、「リスペクト」力はどうだったのか。

小さな会社の社長の話。ここ数年は戦略が当たり、業績は右肩上がり。新規顧客も思った以上に増えている。社長の「ここに餌を蒔いたら、お客は集まる」と言うコメント。顧客に対し、「餌を蒔く」という表現(顧客を顧客とっていない態度)。社長も「認める」力はあるものの、「リスペクト」力はいかがなものか。「好事魔多し」。私は危うさを感じた。これで足を掬(すく)われるのではないか。案の定、社内で言葉や態度で女子スタッフに「パワハラ」や「セクハラ」の誤解が生じた。

今回の不適切発言事件において、識者たちは、「経営層としての自覚がない」「ジェンダー感覚の欠落」「顧客に対する非礼」などと批評している。

人やモノ、自分を取り巻くあらゆるものに対し、「感謝」と「敬意」を表すことの大切さを痛感した。

ちよつと  
長崎の出来事

4月24日付朝日新聞、南塚信吾千葉大名誉教授(東欧現代史)のコメントがあった。ロシアの今回の軍事行動は暴挙であり、侵略は絶対悪。そのうえで世界史の観点から立つと、この戦争は旧社会主義圏にグローバル経済の「新自由主義」が浸透する過程で起きた出来事の一つ。

ウクライナを含む東欧・旧ソ連圏の小国の経済も、欧米資本の新自由主義に組み込まれつつあり、天然資源や農産物の供給地としてだけでなく低賃金労働者の供給地、グローバル企業の新しい市場になった。

以前は、体制を批判しない限り豊かと言えないが比較的安定した暮らしを送ることができた。ところが自己責任の世界が押し寄せてきた。かつての暮らしから放り出され、個人の利益優先で全てがお金次第になった。格差が生まれ、寄るべき柱が消滅した。ロシア側の主張に一片の合理性を見出すならば、欧米型の新自由主義とは別の道を探ろうとして今回の戦争に至った。プーチンは戦争ではなく、欧米型の新自由主義に代わる「新たな普遍的価値」を示すことを目指すべきだった。

我々日本は西側に属する。故に東側の情報が湾曲して入る。善悪で決められない難しさがある。



一口メモ  
知識

## 労謙(ろうけん)す

労謙す。君子終わりありて吉なり。

「労謙(ろうけん)す」とは謙虚に労する。功労があっても誇らず、自分の地位や身分が高くなっても謙虚さを終わりまで全うすること。

人は満ち足りれば、ほとんどの場合、慢心する。謙虚さを全うすることは、なかなかできない。

謙虚に生きることは、いわば自分との戦いである。これでいいと満足せずに、向上し続ける姿勢である。

「易経一日一言」(致知出版/竹村垂希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5  
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

